

練馬区議会議員(無所属)

かとうき桜子

区政レポート



2015年11、12月号

(議会報告通号 Vol.91)

〒178-0063 練馬区東大泉 3-1-18-102

電話 03-3978-4154 FAX03-3978-4158

HP <http://www.sakurako-nerima.com/>

メール sakurako_happy_society@yahoo.co.jp

メールマガジン発行中!

区議会定例会がないときの活動 一乳がん・子宮頸がん検診促進全国大会へ



大会会場にて

区議会の定例会がないときには、様々なテーマの勉強会等に
参加し、今後の議会で指摘すべき論点を整理する活動をしてい
ます。今回はその活動のうちのひとつをご紹介します。

10月19日、「乳がん・子宮頸がん検診促進全国大会」と
いう、議員を対象とした集まりに参加してきました。
私自身も初期の子宮頸がんが2012年に手術による治療を
しています。早期の発見・治療のために、検診受診率の向上は
必要と考えています。

以下、今回の大会で学んだことをいくつかご紹介します。
・乳がんも子宮頸がんも世界的に見れば死亡率は下がる傾向だが、
日本は上昇傾向にある。

・日本は検診受診率が低い。(ちなみに練馬区の2013年度
の受診率は乳がん24.3%、子宮がん23.3%)

・生涯で乳がんにかかる人は12人に1人である。
・生存率は進行するほど悪くなる。

・子宮頸がんは20、30代の罹患率が上がっている。
・進行すると子宮のみならず周囲の臓器も摘出する必要がある、
後遺症も強くなってしまふ。

・受診率向上のために熱心に取り組んでいる自治体では、保健
師が直接訪問して案内するなどの工夫をしている。

・一度案内するだけでなく、未受診者への勧奨をするという
案内のしかたの工夫も必要である。

・墨田区では民生委員等が案内を持って地域の人に渡すという
方法を試みて、受診率が大幅に向上したという例もある。

今回学んだ、他の地域の先駆的な取り組みを参考にしながら、
区議会でも、さらなる受診率の向上に向けた提案をしてきたい
と考えています。

練馬区では胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がんの
検診を低額で受けられるしくみがあります。

がんは、初期の段階では症状が出ないことが多いので、検診
で見つける必要があります。私自身もがんが見つかった時には
特段の症状が出ていたわけではなく、2年に1度受けていた検
診でたまたま見つかったのです。

このレポートをお読みになられている方で、あまりがん検診を
受けたことがないという方は、ぜひ受けてください。

練馬区議会第四回定例会は11月27日～12月11日

練馬区議会の定例会は年に4回(2月～3月、6月、9月～10月、11月～12月)。今年の第四回定例会は11月27日～12月11日に行われます。

定例会では予算や決算、条例の新設・改正、指定管理者の指定、区道の新設などの議案や、区民の方から出された陳情が示され、それぞれの中身に関係のある委員会に付託されて審査されて、最終日には本会議で議会全体として議決するという流れになります。定例会中は平日の日中、ほぼ毎日会議が開かれます。

指定管理者制度を活用して区の施設を民間に委託する場合、どの業者に委託するか選定委員会で選定したあとその決定で良いかどうか議会の議決を経なければならないのですが、第四回定例会では例年、この「指定管理者の指定」という議案が多くを占めます。

宮城県気仙沼へのカンパ、引き続き募集しています。

市民ふくしフォーラム・東北応援プロジェクトでは、東日本大震災で津波の被害や地盤沈下の起きた宮城県気仙沼市にある仮設商店街・南町紫市場の応援をしています。

2011年12月の商店街開設時からカンパを続けており、2015年10月31日まで累計で130万770円をお送りしました。

仮設商店街を建てる際にも、国や自治体からの支援だけでは不足する分は商店街独自の負担となり、一方で非営利団体ではない商店街が対象となる助成金が少なく、苦労されたと伺っています。

仮設から本設へと移行する際にも、商店街独自の負担となる部分が予想されます。そのため、私たちがお送りしているカンパは、日々の商店街運営に回すのではなく、本設の移行に備えて貯めてくださっているそうです。仮設から本設に移行するまでは引き続きカンパを続けたいと考えております。ぜひ引き続きのご協力をお願いします!

[振り込み用紙による振り込み]

00130-2-496362 市民ふくしフォーラム (振込用紙の通信欄に「気仙沼募金」とお書きください。)

[銀行振り込み: ゆうちょ銀行からは手数料無料です]

ゆうちょ銀行 〇一九店 当座 0496362 シミンフクシフォーラム

(こちらからお振込の場合は、別途、ご連絡先をメールまたはFAXにてお知らせください。)

メール sakurako_happy_society@yahoo.co.jp FAX 03-3978-4158

駅でのレポート配布について

かとうき桜子は、月に1回のペースで新しい区政レポート作成しています。視察など遠出をする場合などに間があくこともありますが基本的に1ヶ月で1めぐりするように、おおむね以下のようなスケジュールで配布しています。

- ・毎週月曜日: 大泉学園駅北口
(喫煙所の近く、駅正面のドトール前、新しくできたビルの近く、みずほ銀行の近くの4か所を順番に回っています。月曜日が祝日だったり、月曜日に視察等があり都合がつかないときには曜日を変更する場合があります。)
- ・月2回、火曜日: 大泉学園駅南口(1階ロータリーと2階デッキ)
- ・水曜または木曜のうち月3回: 保谷駅北口と南口(北口正面、線路沿いの道、南口西友前)
- ・月2回、金曜日: 石神井公園駅北口(駅正面と高架下)

かとうき桜子プロフィール

- 1980年4月10日生まれ
- 慶応義塾大学文学部に在学中、ホームヘルパー2級の資格を取得
- 大学卒業後、夜間の上智社会福祉専門学校に入学、社会福祉士取得
- NPOで介護の仕事をする中で、地域福祉・地域社会にさらに深く幅広くかかわる必要性を感じ、2007年区議会議員選挙に初挑戦、当選
- 公立保育園の民営化問題に疑問を感じ、区議の活動のかたわら立教大学大学院・21世紀社会デザイン研究科にて研究。2010年修了
- 2012年、検診で子宮頸がんが見つかり治療。女性の健康へのとりくみの必要性についても政策提言
- 大泉学園町4丁目に猫2匹と夫と住んでいる



二〇一五年十一月

かとうき 桜子

自殺予防対策をより工夫していく必要性

練馬区議会第三回定例会で審査した2014年度決算について、前回と前々回のレポートで一般的な状況を紹介させていただきました。今回のレポートでは個別の様々な課題の中から特に、自殺予防対策についてご紹介します。

のほとても残念です。私は区に対して、引き続き手を緩めず対策を進めるよう求めました。次にその具体的な提案内容を紹介します。

研修体制の充実を

練馬区では、ゲートキーパー養成研修※1と普及啓発、そして保健相談所で保健師や精神科医師による相談体制をとって、自殺予防対策を実施しています。

まず提案したのは、研修体制についてです。行政職員向けのゲートキーパー養成研修は学校の教職員も対象になっているのですが、研修内容が「高齢者のうつ」など、若年層の課題に対応したものではないのが現状です。若年層の支援という観点で教職員やスクールカウンセラーなどを対象とした研修を工夫すべきと提案しました。

相談体制の充実も必要

また、足立区や荒川区は自殺予防対策で専門のNPOからのアドバイスをもとに施策を講じるなど先駆的な取り組みをしています。

荒川区では2014年5月から、BONDDプロジェクト※2というNPOに委託をして、電話やメール、面接の相談などを実施しています。10代、20代など若い年代の方がつらいことがあったときに保健相談所などの行政の専門機関に連絡をするのはハードルが高いと感じる場合もあると考えられます。このように、従来の行政の相談機関だけでは十分に対応できなかった層へ、すでに専門的に取り組んでいる民間団体等と連携・協力しながら働きかけていくことも重要であると考え、練馬区としてもこれらを参考にしながらさらなる自殺予防対策を進めるよう提案しました。

それに対して練馬区は、「自殺者数が平均よりも高い荒川区と異なり、練馬区では自殺者数が全国平均や都の平均と比べて少ないこともあり、また40歳未満の自殺者数が特に増加傾向なわけでもないという状況も分析しており、現時点では荒川区のような若者向けに特化した相談事業を新たにすることは考えていない」という答弁がありました。しかし、左のページの図を見ても分かるように、足立区、荒川区は練馬区よりも自殺率は高いものの、練馬区は「取り組まなくても良い」と言えるほど低いわけではありません。

それにそもそも、自殺の状況を「自殺率」という数字で測って取り組むか否かを決めるということと良いのか、という問題もあります。地域の自殺率が何パーセントかということとは別の問題として、「亡くなった方ひとりひとりが「生きていた命」であり、これからも生きていてほしいかった命だからです。

また、「自殺者数」の背後には、自殺未遂やリストカットなどの自傷行為といった、「生きていくことが苦しい」と感じる方の、数としては見えてこないたくさんの方の声があると考える良いと思います。

自殺予防対策は、「死んでしまう」ことを止めるだけではなく、「生きていく」ことへの支援として積極的に取り組むべき課題です。今後も提案を続けていきたいと考えています。

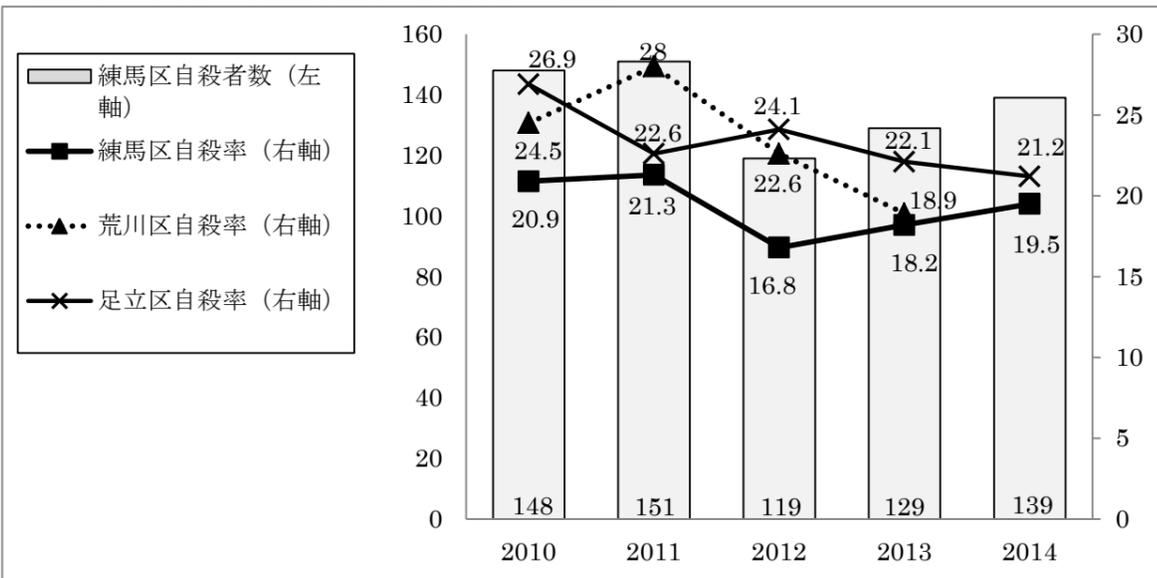
※1 ゲートキーパー養成研修

2007年に閣議決定された「自殺総合対策大綱」の中の重点施策の一つとして「ゲートキーパー養成」が掲げられ、各自治体でも取り組まれている。内閣府のホームページによると、ゲートキーパーとは「自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のこと、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のこと。

※2 BONDDプロジェクト

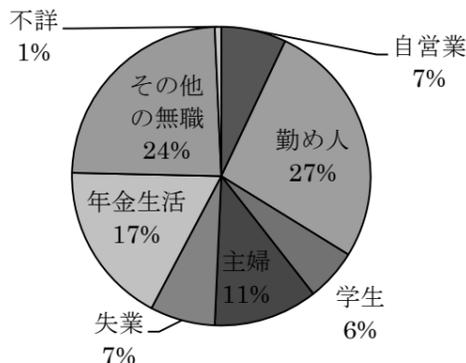
かとうぎ桜子区政レポート9、10月号でも紹介しましたが、10代・20代の女性の相談を受けるNPO。電話、メール、面談による相談、繁華街での若い方への声かけなどの活動のほか、福祉や法律などの専門相談窓口との連携、情報発信などの活動をしている。

過去5年間の自殺者数と自殺率の推移

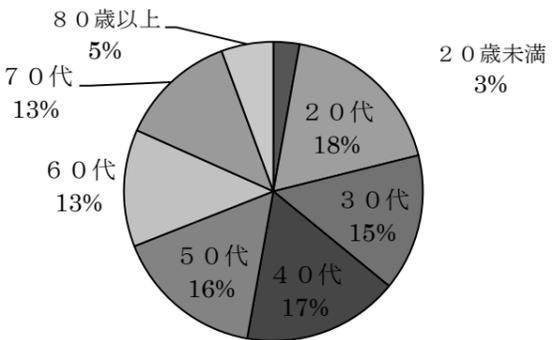


- 荒川区はこのレポートを作成している段階で2014年の自殺率はまだ公表していないため、2013年までの情報である。
- 自殺率は10万人あたりの自殺の割合を示している。荒川区は自殺率もホームページに掲載されているため、ここにそのまま転載。練馬区、足立区は各年の1月1日の人口を用い、[自殺者数×10万]÷人口の計算式でかとうぎ桜子が算出。ただし、足立区は古いデータが入手できなかったため、2010年のみ4月1日現在の人口を用いている。

2014年の練馬区の自殺者・職業別



2014年の練馬区の自殺者・年代別



年代別・職業別の内訳は内閣府の統計より